

平成21年10月24日(土) 14:00-16:45 第1会場(長崎ブリックホール 2F 大ホール)

シンポジウム S5 病める人に寄り添う薬剤師—薬剤師の新たな業務展開—

S5-2 患者から学ぶ薬剤業務の実践に向けて

群馬大学大学院医学系研究科臨床薬理学分野、群馬大学医学部附属病院薬剤部

中村 智徳

薬剤師の新たな業務展開のキーワードとして「スキルミックス」という言葉が頻繁に使用されている。昨今の医療崩壊との関連で論じられることが多く、医師の負担軽減のため医師が行うべき行為を薬剤師に権限移譲することだと捉えられていることもあるように見受けられるが、そうではない。医師が行っている業務の中には薬剤師の役割に含まれる部分もあるので、協働するということである。薬剤師には「調剤された薬剤の適正な使用のための情報を提供」する義務があり、薬剤管理指導業務における薬学的管理は「副作用に関する状態把握を含む」こととなっている。これを達成するためにフィジカルアセスメントが必要であれば実施すべきであり、従来の薬剤業務の概念に捉われず、薬剤師が医薬品の適正使用に積極的に関与する姿勢が望まれている。

一方、医療行為は本質的に危険なものなので、実施にあたっては、その行為を行うことに対する同意があり、その行為の目的が正当であり、その行為を安全に行えるだけの技術と知識を持った者が行わなければならない。チーム医療では、患者だけでなく他の医療スタッフの合意も得られていることが重要である。薬剤師がフィジカルアセスメントを行う場合、その目的は薬物治療を適正に行うことであり、治療効果や副作用症状の観察が中心となる。実習や研修により十分な知識と技術を確保することも必要である。医療行為を行う免許や資格を有することよりも、むしろ実際にその行為を適切に実施する能力があることが重要である。

ヒトの身体は一人ひとり異なり、病気の状態や現れる症状も様々である。多くの正常な症状を経験し、正常との違いに気づくことによって特別な問題を抱えた患者を発見することが可能になるのである。多くの症例を経験した医師が信頼を得るように、薬剤師も患者さんから学ぶ」という意識を持ち、多くの経験を積むことによってスキルを磨く必要がある。

S5-3 褥瘡対策は薬剤師職能の可能性を開く

国立長寿医療センター薬剤部

古田 勝経

薬剤師はチーム医療において、医療安全確保の観点から医薬品の適正使用を促し、副作用の防止を図ることを目的とした薬剤師本来の役割を果たしていくべきである。そこで薬剤師の専門性を活かせるチーム医療として高齢社会を反映した褥瘡対策を紹介する。

褥瘡は病気であり、予防はもちろんであるが、適切な治療を施す必要がある。褥瘡対策はチーム医療が必須とされ、多職種協働での取り組みが求められるが、薬剤師の活動は十分でない。それは診療報酬要件に薬剤師が明記されず、褥瘡は看護の領域という印象を与えていることも影響して薬剤師が関わりにくい状況を生んだ。そのため適切な局所治療が行われず、難治化させている症例もある。深い褥瘡では外用薬による薬物療法が行われ、創の病態に合った外用薬の適正な選択と使用が要求される。薬剤師の特性に基づく知識が必須であり、特に高齢者では皮膚のたるみへの配慮が効果を左右する。そのため薬物療法の専門家である薬剤師は薬剤師の効果を最大限活かすために不可欠であり、遠慮や気後れせずに積極的な関与が必要である。

チーム回診や創処置時における褥瘡の局所薬物療法では、薬剤師は外用薬の適正な選択とその使い方について、単に情報提供だけでなく、創をみることで病態を把握して処方参画し、創の洗浄・消毒や軟膏塗布など薬剤師の効果的な使用法を実地指導することも必要である。また高齢者では皮膚のたるみが創の変形や移動をもたらす薬剤師の効果や治りに影響するため、創周囲の皮膚の状態を触診し、創や周囲皮膚を抑制し創内の薬剤を滞留させて薬剤師の効果を維持することも重要である。その結果、褥瘡の治療成績は飛躍的に向上し、治療期間の短縮を実現できる。一方、内服薬など患者の身体・生理機能に影響し、褥瘡の発症を助長する薬剤師管理も重要である。これらはすべて薬剤師管理指導の一環として行い得るものであり、他職種の領域に入り込むというのではない。